

確かな学力を育むために

文部科学省が実施する「全国学力・学習状況調査」は、今年、第3回目が実施されました。問題の量や質、対象学年などから、このテストだけで児童生徒の学力の全体像をとらえることができないのは当然ですが、これまでの結果と比較することで、それぞれの学校での課題が確認できたことは、大きな成果であると考えます。また、現在求められている「学力」について、このテスト問題によって共通理解が図られていることも成果と言えるでしょう。

今、学校では、「教職員評価」「学校評価」「学校関係者評価」など、さまざまな「評価」が実施されるようになりました。学校は、子どもたちに学力を提供する場所です。学校評価に、「学力の状況」は、絶対に外すことはできません。「教育」は、長いスパンで行われるものであることは当然ですが、将来のあり方を見据え、その時期に何を指導し、定着させてきたかが問われています。成長した先の姿は見られなくとも、個々の時期に関わる教職員の「仕事」が確かであれば、必ず社会人として自立した「人」が育成できる違いありません。子どもの成長に「先送り」はありません。だから、今現在の評価が求められるのです。このテストの実施には、さまざまな意見がありますが、私たちの教育のあり方を検証するためには必要なものであると言えるでしょう。

このレポートを作成するに当たり、本市の全ての学校から先生方を検討委員として参加いただきました。自分たちの目の前にいる子どもたちの学力の状況を把かみ、普段の授業の中で、「こんなことを意識していこうね。」という共通認識をつくっていただくことをねらいとしたからです。また、今年度も、児童生徒の生活状況についても提示いたしました。国や県では、詳しい分析をし、対応策を提案しています。本市のこのレポートは、本当にささやかですが、笠間市の児童生徒と教師のために、日常的に誰もができることを提案していただきました。この学力調査とその分析をとおして、本市の教職員の力量が一層向上することを願ってやみません。

末尾になりましたが、お忙しい中、数度にわたり話し合いを持ち、さらに原稿執筆までしていただきました検討委員の皆様へ、心から感謝申し上げます。

平成22年1月

笠間市教育委員会教育長 飯島 勇